

経営比較分析表（令和4年度決算）

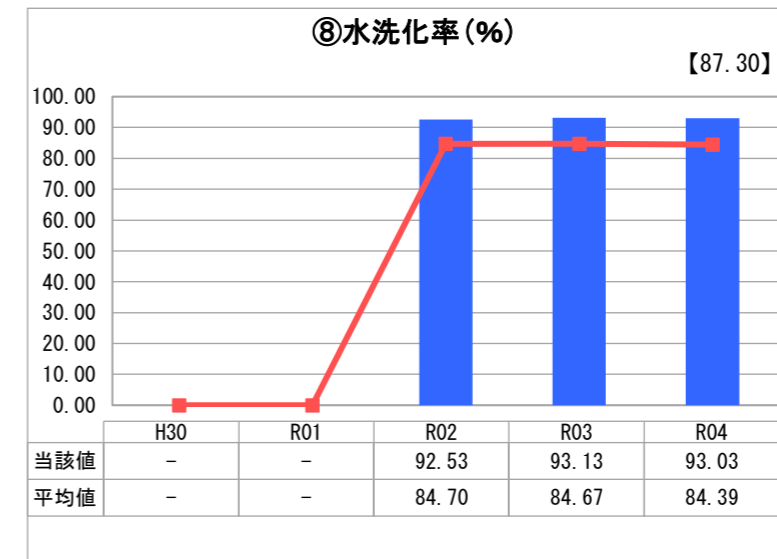
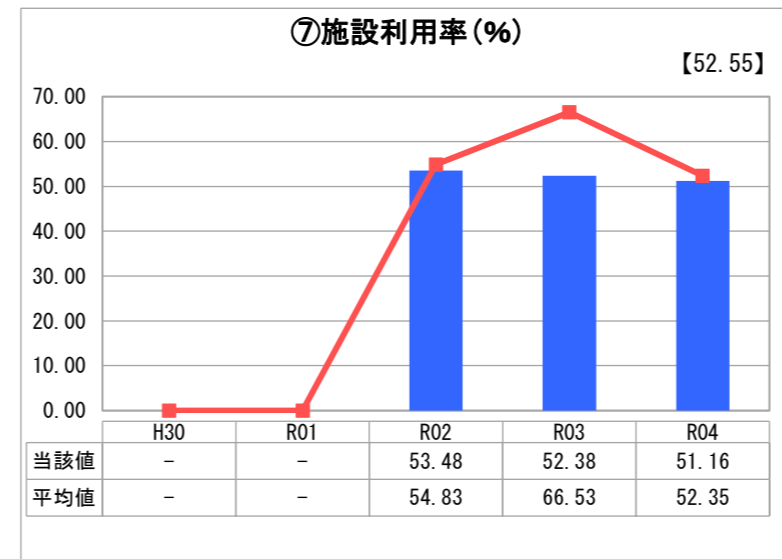
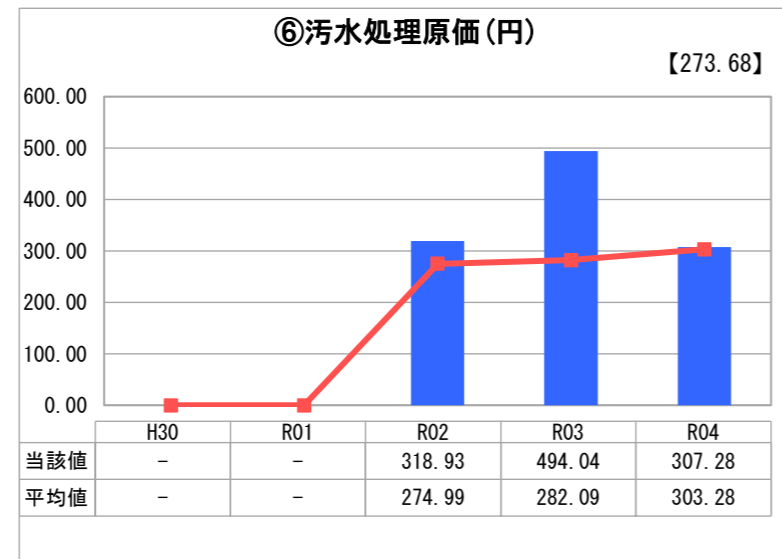
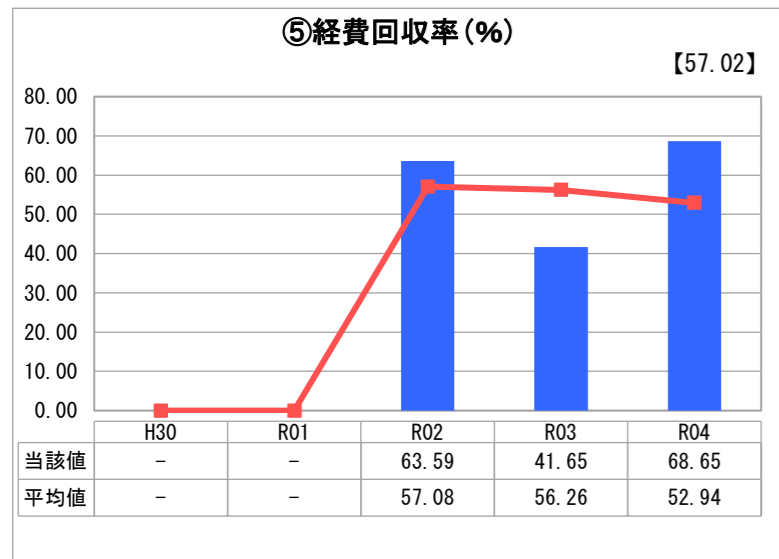
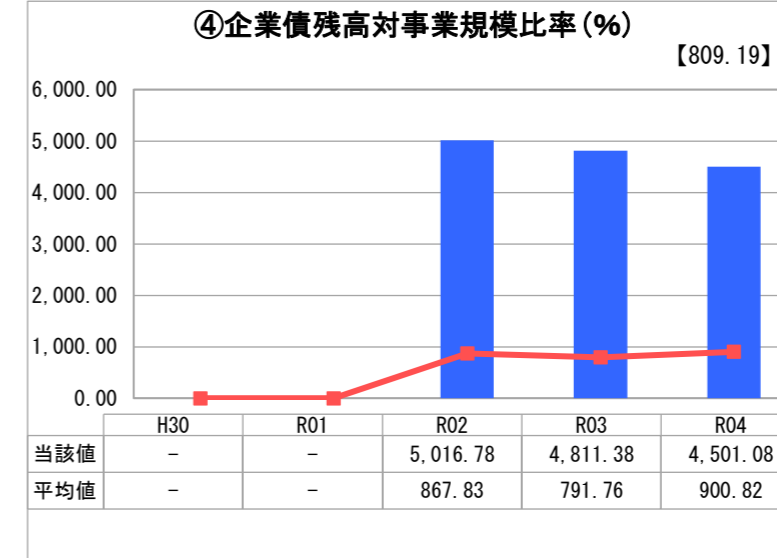
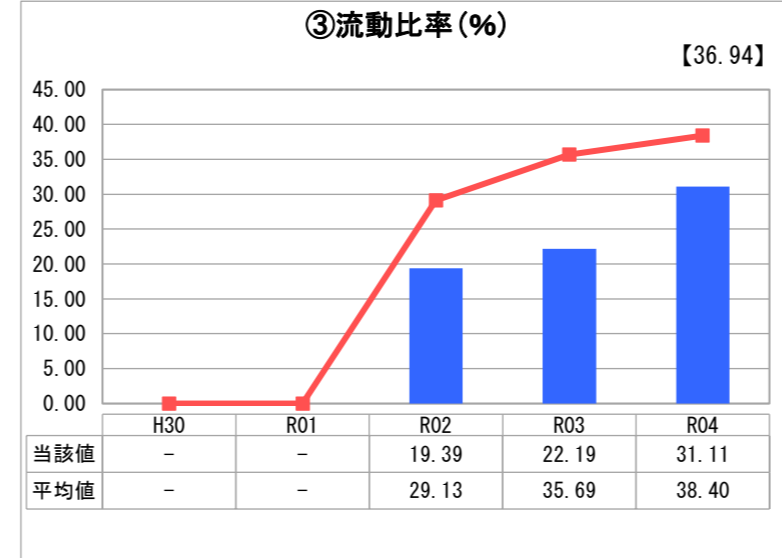
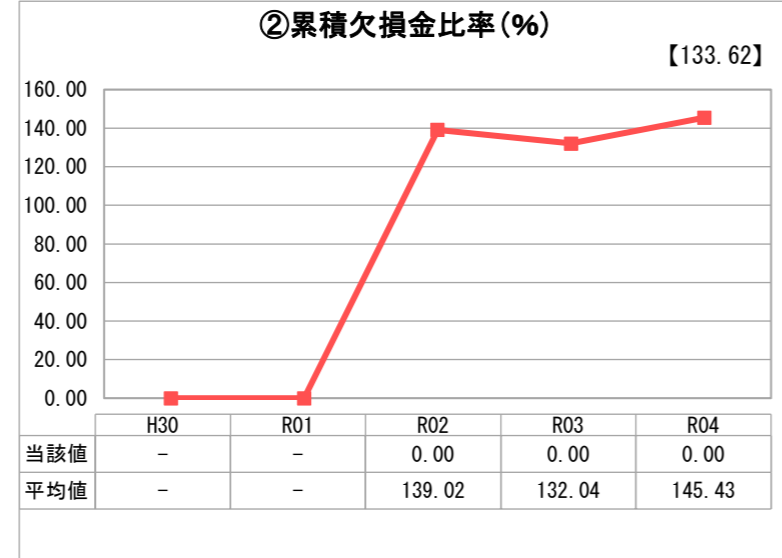
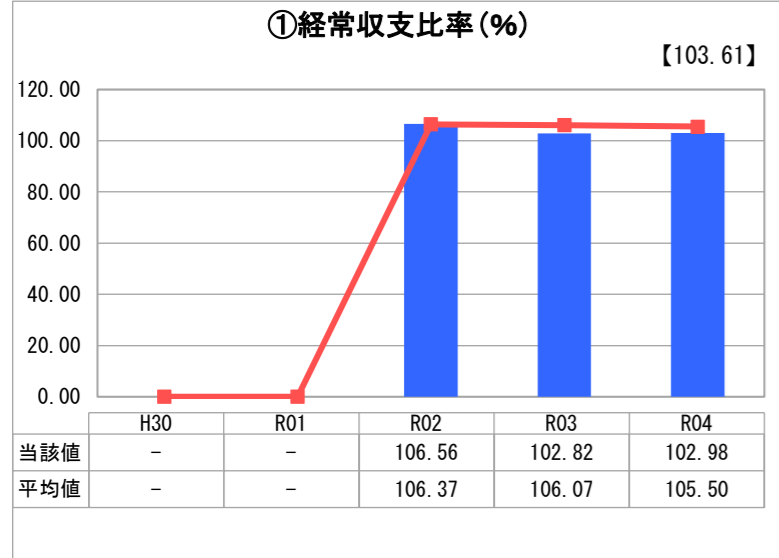
長野県 飯島町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	39.34	19.23	100.00	4,840

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
9,078	86.96	104.39
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
1,737	0.95	1,828.42

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
【	令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

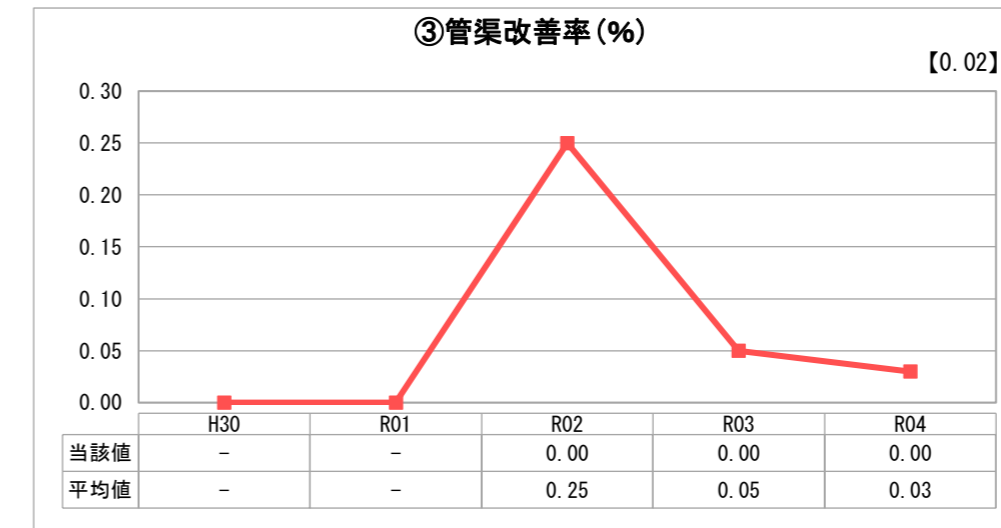
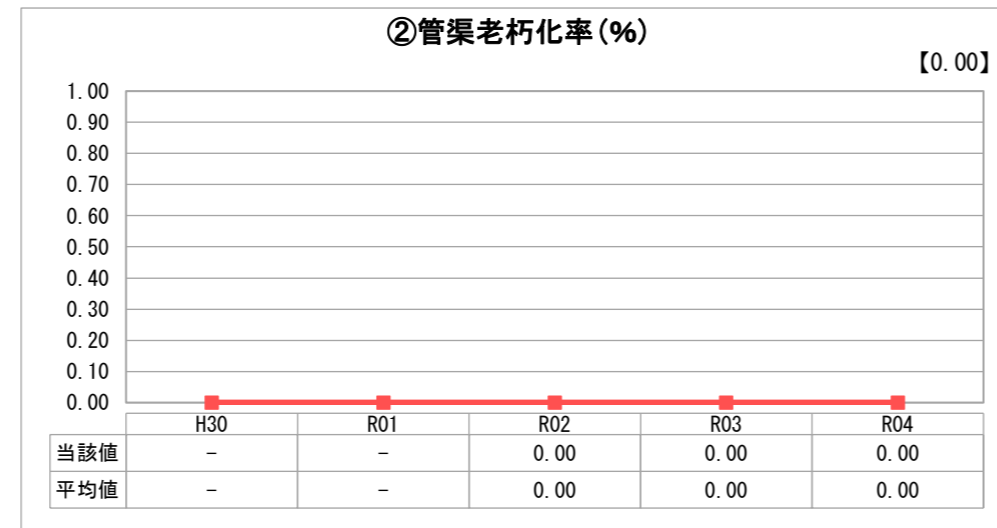
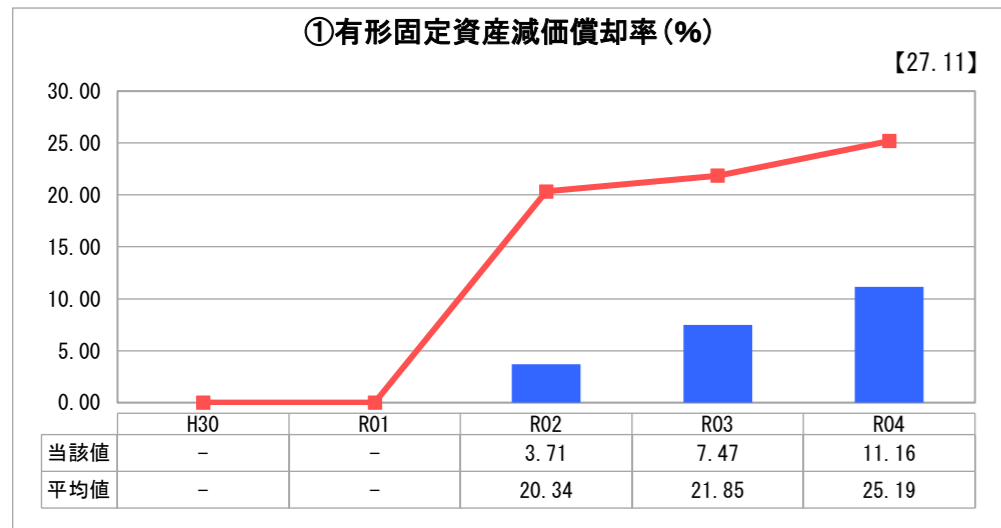
1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率については、経常損益は黒字となりましたが、一般会計繰入金への依存度は非常に高い状況にあるため、使用料改定の検討、経費削減などを行う必要があります。
 ②本年度の欠損金計上はありません。
 ③流動比率は、100%を下回っており短期的な債務に対する支払能力は低い水準にあり、元利償還金の返済が主な原因となっています。令和5年度に償還のピークがくることから、今後は償還に対する現金は減る見込みですが、施設等の更新により投資に現金が必要となるため資金繰りに注視する必要があります。
 ④企業債残高対事業規模比率については、かなり高い水準となっております。令和5年度にピークを迎え、当面は高止まりとなりますが、その後は減少していく見込みです。
 ⑤経費回収率については、類似団体平均と比べ高い水準となっておりますが、今後の人口減少に伴い使用料収入の減少が懸念される現状であり、経費削減とともに経営改革への取り組みが必要になっていくと思われまます。
 ⑥汚水処理原価については、類似団体と同等ですが、投資の効率化や経費削減により、汚水処理費の削減に努めていきます。
 ⑦施設利用率については、前年度から減少しましたが、不明水の影響で左右される結果となっております。不明水調査等を行い、有効な施設活用としていく必要があります。
 ⑧水洗化率は類似団体より高い水準となっております。継続促進は継続的に行い、100%となるように努めます。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率については、類似団体と比較して、かなり低い水準となっておりますが、法適用から3年目となるため、減価償却累計額が低いことが要因です。
 ②管渠老朽化率は法定耐用年数を超過する管渠がないため0%となっておりますが、計画的に管渠の調査をしていく必要があります。
 ③管渠改善率については、法定耐用年数を超過する管渠がないため、布設替え工事は実施していません。

2. 老朽化の状況



全体総括

下水道事業経営については、一般会計繰入金に依存している状況が続いています。最適整備構想に基づき、老朽化した施設の機器等の更新が必要になり財源の確保が課題となっております。水洗化率の向上の必要がありますが、人口減少により大きな使用料収入は見込むことはできません。今後、使用料金改定の検討も見据えつつ、経営の合理化を図り、将来的に公共下水道とともに汚泥処理を共同で行い、コスト削減を行い、持続可能な事業運営に向けた検討を行ってまいります。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。